



DAIDO CAMPUS

No.81 2014.4



写真提供:アルバム委員会



大同大学
DAIDO UNIVERSITY



平成26年度入学式を挙行

4月1日(火)、本学石井記念体育館で入学式を挙行、学部生856名、大学院生22名が大同大学の門をくぐりました。

式では、澤岡昭学長が、「自分にとって何が好きなのか、何をやりたいのか、本当に何が得意なのかを見つけてください。これが分かり、得意なことを中心にした生活を始めると毎日が楽しくなり、自信がついてくるものです。これから勉強、研究、スポーツ、サークル活動、友人との交

流を通じて、元気で愉快的思い出が残る学生生活をつくりだすことを心より願っています」とエールを送りました。

また、新入生代表として、奈木仁志さん(工学部 建築学科 建築専攻)が「私たちは、大同大学の学生であることに誇りを持つと共に、ここで学ぶすべてのことをこれからの時代を支える大きな力とすべく努力することを誓います」と力強く宣誓しました。



式後は、「WELCOME TO DU」イベントを在学生たちが開き、クラブ紹介やミニゲーム、ビンゴ大会などを行いました。また、新入生父母懇談会も実施しました。



男子ハンドボール部

第5回チャレンジ・ディビジョンで企業チームを破り、初優勝!

厳しい経済環境下、企業スポーツチームが廃部に追い込まれる状況を打ち破り、より多くの社会人から大学生などジュニア層のハンドボールに活動の機会を提供するために設立されたチャレンジ・ディビジョン。昨年9月から開催され、2月22日(土)～2月23日(日)に順位決定戦が行われました。この大会で、トヨタ自動車やHONDAなどの企業チームを破り、男子ハンドボール部が初優勝を飾りました。



写真提供:アルバム委員会

杉山拓也さん(ハンドボール部主将/情報学部 情報デザイン学科 2013年度卒業生)

全日本総合ハンドボール選手権大会に 大同特殊鋼ハンドボール部Phoenixの一員として出場!!

2013年12月24日(火)～12月28日(土)に行われた「平成25年度 第65回全日本総合ハンドボール選手権大会」において、大同特殊鋼ハンドボール部Phoenixの一員として杉山拓也さんが出場しました。

杉山さんは、今春大同特殊鋼株式会社に就職、ハンドボール部Phoenixでプレイすることが決まっています。

今大会、Phoenixは決勝まで勝ち進み、愛知県体育館で決勝戦(対 大崎電気)が行われまし

た。決勝では惜しくも敗れましたが、杉山さんの今後の活躍が期待されます。なお、決勝戦の様子はNHK教育テレビで放送されました。

男女ハンドボール部

第11回レッツジュニアスポーツ体験交流イベントに 今年もスタッフとして協力・参加した模様が 東海テレビで放送されました

1月26日(日)6:30～6:55、東海テレビで齊藤慎太郎教授(情報学部 総合情報学科 経営情報専攻/女子ハンドボール部監督)と佐藤壮一郎准教授(同専攻/男子ハンドボール部監督)とハンドボール部員がスタッフとして協力・参加した第11回レッツジュニアスポーツ体験交流イベントの様子が「はじめよう!親子で楽しくコーディネーショントレーニング～miniminiスペシャル～」と題して放映されました。

このイベントは外で遊ぶ機会が少なくなっている子どもたちにスポーツを体験してもらい、身体を動かすことの大切さ、スポーツの楽しさを知ってもらうことを目的に毎年開催されています。

子供たちは4種目のスポーツ(野球/サッ

カー/ソフトテニス/ハンドボール)を体験しながら、コーディネーショントレーニング(脳を鍛え、動きを良くするためのトレーニング)に取り組みました。

本学の教員・ハンドボール部員がスタッフを務めるハンドボールの会場では、「相手をかわしながらシュートする」という、より実践に近い練

習を行いながら、「走る/投げる/飛ぶ/捕まえる」というスポーツに必要な4つの要素を体験してもらいました。

番組ではリポーター2人もコーディネーショントレーニングに挑戦。佐藤准教授のアドバイスを受けながらパスとゴールキーパーの練習に取り組み、体と頭をフル活用していました。



川村絵梨子さん(工学部 都市環境デザイン学科 4年)

平成25年度第3回「大村知事と語る会」に参加しました

11月17日(日)、名古屋国際会議場で、知事と直接県政について語り合う「大村知事と語る会」が開かれ、川村絵梨子さんが参加しました。

今回の語る会のテーマは、「学生と語る環境活動—ESDユネスコ世界会議を契機とした環境活動の発展!—」。来年に控えているESDユネスコ世界会議を契機としてさらに環境活動を盛り上げるための方策について議論し、今後の県の環境活動に生かすことを目的として開催されました。

会には県内でさまざまな環境活動を行っている大学生7人が参加。はじめに参加者それぞれが取り組んでいる環境活動について紹介しました。川村さんは、本学学生が多く参加してい

る「命をつなぐPROJECT学生実行委員会」のメンバーの一員として活躍中。環境活動に興味を持ってもらい、命をつなぐPROJECT学生実行委員会のメンバーを増やすためにした工夫

や今後行政に求めること、県内の環境活動を盛り上げるためのアイデアについて発表し、大村知事と話し合いました。





山村冴未さん(情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻 3年)

ボランティア活動：ネパールの小学校へ文房具を寄付しました



情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻 3年の山村冴未さんが、ボランティア活動に参加し、ネパールの小学校へ文房具を寄付しました。



山村さんは高校時代、ボランティア部に所属していました。卒業した今でも高校のボランティア活動に参加しており、今回ネパール訪問へ同行しました。

訪問前には、本学かおりデザイン専攻や電気電子工学科、学生室などの協力を得て、鉛筆125本、色鉛筆285本、消しゴム11個を集め、昨年12月20日(金)～12月30日(月)にネパールへ。チャンビ村小学校や植樹地ダングバス村小学校を訪問し、集まった文房具を寄付してきました。

株式会社マウンテックとの産学連携プロジェクト「Xラーニング」最終プレゼンテーションを実施しました

一昨年度から実施している株式会社マウンテック(板金メーカー)との産学連携プロジェクト「Xラーニング」。

このプロジェクトは、工学部建築学科建築専攻とインテリアデザイン専攻、情報学部情報デザイン学科プロダクトデザイン専攻の学生が、企業と連携して画期的な商品の開発を目指すもの。一昨年度から引き続き、高い加工技術を持つ板金メーカー・株式会社マウンテック(本社:愛知県津島市)と連携し、商品開発に取り組んでいます。2年目の昨年度も1グループ8人程度で学年、専攻の垣根を越えた3つのグループをつくり、8月に工場見学、そこで受けた刺激を元に課題に取り組み、11月に中間プレゼンテーション。その際にマウンテックの山田専務らから受けたアドバイスをもとにアイデアをさらに練り上げ、2月4日(火)、最終プレゼンテーションを実施しました。

最終プレゼンでは、スライドや模型を用いながらコンセプトやターゲット、カタチやサイズ、販売場所など商品化に向けて具体的なところまで突き詰め、発表しました。生き物をモチーフにしたラック、子供用シーソー、表札、防犯グッズなどが提案されました。なかには1つの商品で2つの用途を持ち合わせたものもあり、学生ならではの視点からの提案に、山田専務から「おも



しろいアイデアがたくさん出てきました」と講評をいただきました。また、その年代をターゲットにした理由やその材料・カタチ・大きさを選んだ理由など、商品化に向けての厳しい質問もなされました。

今後はマウンテックによる審査・検討が行われ、最優秀賞の作品、さらには商品化への可能性について発表されます。



本学学生が多く実行委員として活躍している命をつなぐPROJECT 学生実行委員会 ESD 地球市民村「ラーニング・プログラム」に出展しました

1月13日(月・祝)、ウイंकあいちでESDイヤーキックオフイベントが開催され、本学学生が多く実行委員として活躍している命をつなぐPROJECT学生実行委員会が出展しました。

今回のイベントは、2014年秋に愛知県で開催される「ESD(持続可能な開発のための教育)」に関するユネスコ世界会議に向けて、多くの県民の人たちに分かりやすく楽しみながらESDへの理解を深めてもらうことを目的に開催されたイベン

ト。

学生たちは、このイベント内で開催されたESD地球市民村「ラーニング・プログラム」に参加しました。このプログラムは、分かりにくい・難しいと言われがちな「ESD」について、実際に日本各地で実践されている優れたプログラムを模擬教室で体験してもらうことで、テーマの広がりを実感してもらい、ESDを身近に感じてもらうために開かれました。実行委員会は「竹取物語 ～知多半島編

～」と題して、知多半島の企業緑地での間伐によって生じた竹材を用いたクラフト体験ができるブースを設け、イベントを盛り上げました。

■ESD(持続可能な開発のための教育)とは?

環境、貧困、人権、平和、開発といった、現代社会のさまざまな課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そして、それにより持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動のこと。

機械工学科／総合機械工学科

日本機械学会東海支部第63期総会・講演会が本学で開催されました

3月18日(火)、19日(水)に日本機械学会東海支部の第63期総会・講演会が本学で開催されました。

学術講演では東海地域で日々、研究に励む研究者が研究の概要と成果を発表しました。

この講演会には本学の学生、大学院生も発

表者として参加しており、実験の成果や今後の課題について発表しました。

発表の後には他大学の教授や学生から質疑もあり、各会場で活発な議論が交わされました。



坂倉守昭研究室(工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻)

Laser Contest 8thで入賞

Laser Design Forumが主催するLaser Contest 8thに藤井俊幸さん(工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻2013年度卒業生／坂倉守昭研究室)らが応募し、協賛社(株式会社サーパスデザイン)賞を受賞しました。このコンテストは、「買う」から「こしらえる」というムーブメントが世界に拡がりつつある中で、ものづくりの基軸ツールとして注目されているレーザー加工機を使用し制作された作品を募集したもの。

今回藤井さんは、アクリルツリーを制作。制作にあたっては、加藤大地さんと山下和彦さん

(共にロボティクス専攻2013年度卒業生／坂倉研)にも協力してもらいながら進めました。モミの木の葉をイメージし、アクリル板を針状にカット、3次元的に組み合わせてツリーを構成し、レーザーによる微細切断を利用し紙で雪の結晶パターンを作成。またイルミネーションでアクリルの透明感とシャープなエッジおよび光沢を強調しました。2次審査ではプレゼンテーションもあり、自分たちの作った作品について精一杯発表しました。

藤井さんは「今回の経験を今後のものづくりに活かしていきたいです」と話してくれました。



▲制作したアクリルツリー

工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻／ロボット研究部

あいちITSワールド2013に出展しました

平成25年12月12日(木)～12月15日(日)、ポートメッセなごやで「あいちITSワールド2013」が開催され、工学部総合機械工学科ロボティクス専攻とロボット研究部が出展し、実演を行いました。

このイベントは、愛知県ITS推進協議会と中部経済新聞社主催により、名古屋モーターショーと同時開催で行われました。企業等によるITS技術を取り入れた製品・サービスの展示やデモンストレーション、大学等教育研究機関による研究成果発表などが行われ、本学のブースでは小型化した2軸自動絞りロボットや手動タイプの簡易型絞りロボット、空中ブランコロボット、小型格闘技ロボットを展示し、多くの見学者から注目を集めました。特に有松・鳴海絞のくくり作業を行うロボットは、この地区の伝統工芸にかかわった人の多さから期待する声を多く聞くことができました。また空中ブランコ

ロボットはまだ健在で、子どもから大人まで体験を楽しんでもらいました。小型格闘技ロボットも連続運転で部品が破損するほどの賑わいでした。

15日(日)に開催された、ロボット競技会「ロボットバトルinモーターショー」ではロボット研究部が活躍。高校生から社会人、ロボット研究

部を含めたロボット操縦者によって合計18台の小型二足歩行ロボットが参戦し、午前と午後の部で格闘技のトーナメント試合を行いました。ロボット研究部は先輩から引き継いだ大会運営のノウハウを生かして審判や解説者なども務め、ロボットステージに集まった多くの見学者を大いに盛り上げました。



武田秀雄研究室(工学部 電気電子工学科)

「電気設備学会誌」に研究室が紹介されました

一般社団法人 電気設備学会が発行している『電気設備学会誌 Vol.33 2013 No.11』に、武田教授の研究室が紹介されました。

武田教授は30数年間、企業で主に直流送電による電力輸送の仕事に携わり、50/60Hzの周波数変換設備、列島を連系する直流送電設備、そしてこれらの高速潮流制御機能を活用し

た電力系統の安定化制御装置等の開発、設計、試験、据付け、保守を含む総合エンジニアリングを担当してきました。そして、これからの電力技術の世界では、直流送電(パワーエレクトロニクス)、再生可能エネルギー、電力貯蔵、スマートグリッド、水素等を媒体としたエネルギー循環社会などがキーワードになると考え、研究室に

おいて「大電力輸送研究室」の看板を掲げて①直流送電の活用、②再生可能エネルギーの安定化(電力貯蔵)、③水素エネルギー循環社会を念頭においた水素の生成、貯蔵、取出しについて研究を進めています。

杉本幸雄研究室(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

『大同大学プレゼンツ オリジナルラジオドラマ「涸れた泉」』が放送されました

1月26日(日)、FM Aichi 80.7 SUNDAY SPECIALで杉本研究室が制作したオリジナルラジオドラマ「涸れた泉」が放送されました。

学生たちは、昨年春からドラマのアイデアを持ちより練りあげていき、夏頃から脚本作成、

11月におよそ60分の作品を完成させました。ドラマは、西暦2114年が舞台、環境破壊・資源の枯渇が進み、争いが絶えなくなった時代に人々を上から順にランク分けするランク制度が導入されたという設定。自分の身分を守るの

ではなく、人と人とのつながりの大切さを強調した作品となりました。またプロの声優だけでなく、学生や小島一宏准教授(メディアデザイン専攻)も出演しました。

上岡和弘研究室(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

愛知ブランド企業PR動画、完成!



▲愛知県産業労働部 産業振興課の方、ご協力いただいた認定企業の方、上岡研究員のメンバー

昨年春からスタートした愛知ブランド企業PR動画制作活動。愛知ブランド企業とは、県内の優れたものづくり企業の実力を広く国内外にアピールし、愛知のものづくりを世界的ブランドへと展開するため、愛知県が認定しています。

上岡研究室では、愛知県産業振興課と連携してこの愛知ブランド企業を対象にした企業PRを研究テーマにしており、平成23年度認定

企業13社のうち4社のPR動画を、同専攻の杉本幸雄研究室をはじめ他研究室学生の協力により制作し、動画共有サイトYouTubeで配信を開始しました。また同作品は、愛知県のHP(平成23年度愛知ブランド企業紹介)にも掲載されています。

学生たちにとっては大学で学んできた知

識や技術をより実践的なものとする機会に、県としても学生の職業観の形成や製造業に対する理解ある人材育成、さらには愛知ブランド認定企業の知名度向上にも繋がる機会となりました。

制作にあたっては、各企業を訪問、仕事内容について取材しました。取材を通して企業の強みを見だし、企業にPR方法を提案、打ち合わ

せを重ねていきました。それぞれの動画で監督や制作、カメラ、音声、ナレーションなど役割を決め撮影し、完成にいたりしました。学生たちは今回の撮影を通じて、映像制作のスキルだけではなく、企画案の作成やスケジュール調整の仕方、社会人との接し方なども学ぶ良い機会となりました。企業の方々のプロ意識に触れ、意欲的に取り組むことができたようです。

なお、上岡研究室と愛知県産業振興課はこの活動を継続実施していくことで合意しており、24年度認定企業についても、PR研究と動画制作を行っていきます。

■愛知ブランド企業ホームページ
<http://www.aichi-brand.jp/>



情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻

オリジナルタイポグラフィポスター展を開催しました

情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻の授業「情報演習Ⅳ」(渡部裕子講師担当グループ)を履修している学生が、A棟1階学生ホールでオリジナルタイポグラフィポスター展を開催しました。今回の課題は、新しいフォントを開発し、それをギャラリーで発表するという、仮

の企画の告知ポスター。学生たちは、講義の中で、オリジナルフォント26文字の制作、B1サイズのポスター制作、展示設営に取り組みました。



横山弥生研究室(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)

日本図学会中部支部冬季例会で奨励賞を受賞

2月26日(水)に開催された日本図学会中部支部冬季例会で、横山弥生研究室卒業生の小島莉加さんと山下幸大さんの卒業研究「か

おりをかたちにする研究と製品への展開」が奨励賞を受賞しました。なお、この研究は今年立ち上げた「かたち&かおり研究ラボ」で行わ

れたものです。



第13回 におい研究交流会を開催しました

3月7日(金)、第13回 におい研究交流会が開催され、においや香りに関する業界関係者が多数参加しました。

産学連携共同研究センター長の光田恵教授(情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻)が司会を務め、澤岡昭学長が開会挨拶を行いました。

初めに、奈良女子大学の磯田則生名誉教授から人間・生活環境系学会委員会の紹介がなされ、委員からにおい研究関係文献調査結果、におい環境評価のための生理量・行動調査に関する研究、喫煙室のにおい環境調査などについて紹介されました。

その後、本学の電気電子工学科や情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻などの他学科・専攻との共同研究や産学の共同研究について、かおりデザイン専攻の学生らが発表しました。また、かおりコンテスト2013も開催され、かおりデザイン専攻2・3年生がそれぞれのコンセプトをもとに調香したオリジナルのかおりを参加者に評価していただきました。

特別講演では、東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻の東原和成教授から「においの受容メカニズムの解明:基礎から応用へ」と題して、講演が行われました。

講演会終了後は懇親会が開かれ、企業の

方々や学生などとの交流の場となったほか、かおりコンテストの投票結果も発表されました。

学生たちにとっては、企業の方々に前にして発表し、様々なご意見や感想をいただいた経験を通して、新たな刺激となったようです。



情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻

半田市と連携して、家畜の臭気対策に取り組みます

かおりデザイン専攻と愛知県半田市が連携し、家畜の臭気対策に乗り出し始めました。

暮らしの中や都市空間などの快適性に大きく影響する「におい・かおり」。かおりデザイン専攻では、素敵なかおりのデザインや不快なおいをコントロールする知識と技術を備えた専門家を育成しています。

半田市には牛の肥育農家が30軒ほど、鳥と豚の農家が数軒ずつあり、住宅と農家が近い

ため臭気対策は長年の課題となっていました。これまでも市は農家向けの対策や住宅地に及ぶ臭いの軽減策に取り組んできましたが、こうした臭い対策に成功している自治体は全国でも例がなく、難航していました。

そこで、本学かおりデザイン専攻へ依頼があり住宅地にも及ぶ家畜のふん尿の臭気対策に本格的に乗り出すことに。すでにふん尿から出る臭いの物質の分析を始めており、今後市街地

に届く臭いの物質を特定し、どれくらい離れた距離にどの物質が飛んでいるかを分析。農家に負担をかけない消臭方法や、広がった臭いに対して住民が取れる対策がないかを追求していきます。

なお、この情報は2月20日(木)中日新聞知多版でも紹介されました。

光田恵教授(情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻)

NHK総合『ためしてガッテン』に出演しました



▲撮影の様子

2月26日(水)、NHK総合『ためしてガッテン』(毎週水曜午後8時～放送)に光田教授とかおりデザイン専攻の学生が出演しました。

番組では「助けて!まな板の上のしつこいニオイ」と題して、魚を調理したあとの生臭いニオイを取り除く裏技を検証しました。

ちまたで実践されているという裏技5つの中からどれが一番効果的か検証するため、本学のかおりデザイン専攻が実験に協力。400種類ものニオイをかぎ分けられることができる「ニオイのエキスパート」として光田教授と臭気判定士(国家資格)合格者の学生たちが紹介され、それぞ



れの裏技で洗ったまな板のニオイをかぎ分け、数値化することで効果を検証しました。

実験では、「臭気強度1」にあたるやっと感知できるにおいを見事にかぎ分け、最も効果的な裏技を紹介しました。

情報学部 総合情報学科 経営情報専攻 スポーツビジネスコース

なごや健康カレッジ大同大学講座を開催しました

2013年10月から12月までの全6回、名古屋市在住の65歳以上の方を対象に「なごや健康カレッジ大同大学講座」を開催しました。テーマは「からだを動かす習慣をつけよう」。この講座は名古屋市と連携して毎年開催されており、高齢者が楽しんで運動すること、家庭内でも継続できる内容を実施することを基本として行われており、今回は28人の参加がありました。

講座では、教養部 保健体育教室の水野義雄教授、山田雄太准教授、情報学部 総合情報学科 経営情報専攻の齊藤慎太郎教授、佐藤壮一郎准教授が講話を担当したほか、スポーツ情報専攻3年生の学生らも実践のサポートを行いました。

講話では、家庭にあるものを利用した軽運動やストレッチ運動について紹介され、実技では実際に学生と話しながらの10分間歩行やペットボトルやボールを利用した軽運動などを行い

ました。

参加者の方からは「学生さんとおしゃべりできて楽しかった、元気をもらった」「外に出ることが多かった、毎日ウォーキングをするようになった」などの感想をいただきました。



大同大学「X4デザイン専攻・リレー展」は、本学デザイン系の専攻から4専攻、建築専攻・インテリアデザイン専攻・メディアデザイン専攻・プロダクトデザイン専攻がそれぞれ専門分野の魅力を広く学外の人たちにも知ってもらいたいという思いから昨年よりスタートした展覧会です。

2月にはメディアデザイン専攻とプロダクトデザイン専攻、3月には建築専攻とインテリアデザイン専攻、メディアデザイン専攻がそれぞれ作品展示・発表を行いました。

情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻

サウンドアートコンサート／グラフィック・Webデザイン選抜展を開催しました

2月20日(木)に熱田文化小劇場でメディアデザイン専攻によるMEDIA DESIGN SOUND ART CONCERTを開催しました。

今回のサウンドアートコンサートでは、学生が制作・作曲した個性豊かな作品の数々が披露されました。サウンドに合わせて動くイラストや光、作品を実際に舞台上で演奏するパフォーマンスなどそれぞれの世界観が表現されており、観客の心を魅了しました。

また本学メディアデザイン専攻の小島一宏准教授が司会を務め、コンサートをいっそう盛り上げました。コンサートの最後にはゲストのピアニストやパーカッショニストによる素晴らしい演奏が披露されました。

また、3月4日(火)～9日(日)には、セントラル画材4階のセントラルアートギャラリーでグラフィック・Webデザイン選抜展を開催。140人の来場がありました。



情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻

ナディアパークで卒業制作展を開催しました

2月20日(木)～2月23日(日)、プロダクトデザイン専攻が卒業制作展をナディアパークで開催しました。22日(土)には来場者数が800人を超えるなど、4日間で2,560人の来場がありました。

世の中にまだ存在しない新しい価値や提案を生み出し、暮らしや産業に豊かさをもたらすプロダクトデザイン。自転車や家具、食器、かばん、化粧品、災害支援グッズなど…、個性とデザイン性

にあふれた学生たちの作品が展示されました。中には本学工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻や情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻と連携して作り上げた作品もありました。



工学部 建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻

卒業研究選抜展を開催しました

3月14日(金)～3月16日(日)、ウインクあいちで建築専攻・インテリアデザイン専攻の学生の卒業設計や卒業論文のうち、特に優れたものを紹介する「卒業研究選抜展」が開催され、3日間で121人の来場がありました。

設計作品からは、社会に対して学生が多様な未来像を提案している様子を垣間見ることができ、また論文からは学生が創意工夫して実験や調査などに取り組んで得た成果を見ることができました。さらにこれらに加えて、教員が日頃研究室で行っている教育研究内容についても

パネルにて展示されました。





澤岡昭学長の名前が小惑星に

昨年11月17日(日) 付けで国際的な組織である小惑星センターから、小惑星6298の名前として『Sawaoka』が登録されたとの通知が、この小惑星の発見者である小島卓雄氏にありました。

発見者の小島氏は澤岡学長のご友人で、小惑星発見の際に「澤岡学長の名前をいただきたい」とのお話があったそうです。

この小惑星の運行についてはNSAS (JPL) のホームページ、
<http://ssd.jpl.nasa.gov/sbdb.cgi>
のsearchの枠に6298を入れてクリックすると詳細な情報が得られます。

澤岡昭学長

読売新聞で国際宇宙ステーションの運用期間延長に対してコメント

1月30日(木) 読売新聞に、澤岡昭学長が国際宇宙ステーションの運用期間延長に対してコメントした記事が掲載されました。

米オバマ政権は、1月8日(水)、国際宇宙ステーションの運用期間を少なくとも2024年まで延長すると決め、日本などの参加国に協力を要請。しかし、日本政府は巨額の費用がかかるため慎重になっています。ステーションの一角にある日本の実験施設「きぼう」の運

用にも節減を行っているなか、運用が長く続くと日本独自の宇宙開発がダメージを受けることは間違いないからです。

学長は、米国が延長にこだわるのは中国を意識していることだろうと指摘。宇宙開発が科学技術の面だけではなく、外交、政治問題になっていると話しました。ステーションを宇宙予算から切り離し、別枠の国際協力費として出すべきだとコメントしました。



▲読売新聞(1月30日)

篠原主勲准教授(工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻)

Next30産学フォーラムで講演しました

2月6日(木)、愛知県立大学において中部経済連合会主催「第11回Next30産学フォーラム」が開催され、篠原准教授が講師を担当しました。このフォーラムは、次の30年を担う新進気鋭の若手教員等のネットワーク作りを目的とした大学、企業の異分野・異業種交流会です。毎回若手の先生による講演や参加者からのさまざまな話題提供、ディスカッショ

ン、懇談を通じて相互理解を深め、新たな発想、啓発の機会を提供しています。

篠原准教授は「スーパーコンピュータによる宇宙衛星開発」と題して講演を行い、スーパーコンピュータの性能進化の歴史や、自身がJAXAで取り組んでいた宇宙衛星開発の概略について紹介しました。



橋本雄一教授(工学部 電気電子工学科)

環境ビジネス産学連携セミナーで講演しました

1月30日(木)、名古屋栄ビルディングにおいて中部経済産業局主催「平成25年度 環境ビジネス産学連携セミナー」が開催され、橋本教授が講演しました。

このセミナーは、今後大きな市場が期待されている環境ビジネス分野において、大学関係者からシーズ技術を紹介し、中部地域の環

境分野関連企業のニーズとの「お見合い」を行うことにより、「産・学」、「産・産・学」連携を通じたイノベーション創出の機会とすることを目的として開催されました。

橋本教授は、大気圧放電プラズマを利用した紙のリユースプリンティングシステムについて紹介しました。橋本教授の他に3人の大学

関係者がプレゼンターとして出席し、産学連携テーマの紹介が行われました。講演後には、橋本教授ら講演者と参加企業との個別マッチング会が開催され、各企業の環境技術との融合について活発な議論が行われました。

山田靖教授(工学部 電気電子工学科)

エスベック信頼性セミナー2013などで講師を担当しました

11月27日(水)に東京秋葉原で開催された、エスベック株式会社主催「エスベック信頼性セミナー」で山田教授が講師を務めました。

このセミナーは、電子機器の信頼性に関して、企業等の技術者を対象に技術動向や事例を解説するもので、当日はおよそ150人が聴講。

山田教授は、「次世代パワー半導体用接合技術」と題して特別講演を行いました。自動車の電動化、次世代パワー半導体に続き、その接合技術に関して検討した事例を解説しま

した。

12月10日(火)には横浜国立大学で開催された「第38回YJC(よこはま高度実装技術コンソーシアム)実装技術セミナー」でも基調講演。

このセミナーは、電子機器の実装技術について、企業等の技術者を対象に行われているもの。電気自動車等に用いられるパワー半導体の実装技術に焦点が当てられ、山田教授は『パワー半導体実装-高温動作に向けた接合技術-』と題して、企業の発表に先立ち同分野

の技術動向や課題に関する解説を行いました。その中で、パワー半導体の高温動作に向けた接合技術に関する最新のトピックスも紹介しました。

また、1月16日(木)には東京都千代田区で企業の技術者を対象に「最新SiCパワーデバイス・パワーモジュールの高耐熱実装技術とその車載実装への対応技術」と題して行われたセミナーで、講習「EVインバーター用パワー半導体デバイスの実装技術」を担当しました。

加藤和雄教授(工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)
建築学科 インテリアデザイン専攻3年生

JCD文化祭 展覧会・講演会に参加しました

一般社団法人日本商環境デザイン協会(JCD)中部支部主催 JCD文化祭。1月22日(水)～1月27日(月)に国際デザインセンターで展覧会が、1月26日(日)には栄ガスビルで講演会が開催されました。

展覧会では、正会員17人、賛助会員、Facebookでも話題のユニークなデザイン活動を行っているMAGIC MADEのAmikar Kanshai氏の特別作品などが展示され、加藤教授も作品を出品しました。

また、講演会は“PART1 JCD/DESIGNの基本要素は何か?”と題して開催され、日本を代表するインテリアデザイナーの飯島直樹氏(JCD支部長)、垂見和彦氏、神谷利徳氏、野井成正氏ら4人のパネリストのプレゼンテーションが行われました。その後、加藤教

授がコメンテーターを務め、各デザイナーのデザイン(人間的な行為・身体・精神、空間的なモノ・スペース・自然)から要素の抽出を行い、その作風を特徴づける要素を客観的に図表化。デザイナー本人とそれについて対談を行いました。対談では、4人のデザイナーにおけるデザインの要素について差異と共通性が議論され、これにより商環境デザイン=f(x)の意義、必要性、基本要素が確認され、デザインにおける客観的把握の重要性が再認識されました。

また、講演会の最後には学生によるプレゼンテーションが行われ、本学建築学科インテリアデザイン専攻3年生が、インテリア設計4の授業で設計・制作した1/1茶室について発表しました。



加藤和雄教授(工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

中部デザイン協会講演会に司会・コメンテーターとして参加しました

2月15日(土)、国際デザインセンターで中部デザイン協会「第31回会員プレゼンテーション『椅子』3つの視点からーデザイン、歴史、技術開発ー」と題して講演会が行われ、加藤教授が司会・コメンテーターとして参加しました。

会場には、家具メーカーの方やインテリアデザイナー、プロダクトデザイナー、学生などおよそ80人が集まりました。初めに3人のパネラーから「椅子」におけるそれぞれの視点から「デザイン、歴史、技術開発」の研究成果が

発表されました。この地域を代表する家具デザイナー、研究者である宇賀敏夫氏(中部デザイン協会・理事長)からは『一人間工学の視点からー椅子のデザインについて』、次に高橋敏郎氏(愛知淑徳大学・教授)からは『C・Rマッキントッシュの椅子』について、滝本成人氏(相山女学園大学・准教授)からは『技術開発の先のデザイン開発』について発表され、その後加藤教授との議論が交わされ、家具、椅子業界の未来に提言がなされました。



鷺見哲也准教授(工学部 建築学科 土木・環境専攻)

NHK総合『復興サポート 「防潮堤から考える町の未来 ～岩手県大槌町～」』に出演

2月16日(日)、NHK総合『復興サポート
「防潮堤から考える町の未来 ～岩手県大槌町～」』(午前10:05～10:53放送)に鷺見准教授が出演しました。

この番組は、NHKが被災地の復興を支援するために行っている取り組みの一つ。復興に役立つ知恵を被災地に届けるため、シンポジウムやミーティングなどを開催し、さまざまな形で被災地の復興を支援、その模様を月1回紹介しています。

16日の放送では、岩手県大槌町の防潮堤計画に焦点が当てられました。岩手県大槌町は東日本大震災による深刻な津波被害を受け、その後高さ14.5mの防潮堤の建設計画が

立てられました。ですが最近になり、この町に限らず防潮堤が大きすぎる、維持管理費がかかる、景観に影響がある、などの理由で反対する住民の声が上がり始めています。2月1日(土)、この防潮堤問題も含め、この先のまちづくりについて考える住民のワークショップが開かれ、この模様が放送されました。

医療・福祉や土木工学など各分野の専門家が町復興計画の在り方などを議論、町長へ提言する機関「大槌町復興まちづくり創造懇談会」のアドバイザーを担当する鷺見准教授は、住民の提案や、奥尻島津波災害の教訓、高知県黒潮町での避難対策などの情報提供を背景にしながら、この計画がどのような根

拠で定まったのかを解説する一方で、会場でのワークショップ(グループワーク)の進行を担当しました。

ワークショップでは、復興まちづくりのなかでこの町で何を大切にし、どのようなまちを作っていくとよいのか、住民自身が互いの意見を出し合って共有し、考える時間を持ちました。最後に、このような議論が続けられること、コミュニティを大切に防災対応やまちづくりを続けることの大切さがみんなの間で共有された、とまとめました。

鷺見准教授は、現在月1回のペースで現地に通い調査を行うとともに、被災後の状況について現在も発信し続けています。

杉本幸雄教授(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

監督を務めたドキュメンタリー映画 『四つの空 いのちにありがとう』 全国各地で上映会が開催されています

名古屋のNPO法人「いのちをバトンタッチする会」と共に制作、杉本教授が監督を務めたドキュメンタリー映画『四つの空 いのちにありがとう』。昨年9月21日(土)の名古屋での初号を皮切りに、東京、岩手、京都、熊本など全国各地で上映会を開催しています。

昨年12月18日(水)には愛知県瀬戸市の

瀬戸蔵つばきホールで上映会が行われ、およそ300人が訪れてくれました。いずれも地元住民の人たちによる上映会実行委員会での手作り上映会。このドキュメンタリー映画はそんな熱い人たちによって今後も全国各地で上映会が開催される予定です。



小島一宏准教授(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

震災復興支援チャリティーCDをリリースしました

小島准教授が、東日本大震災復興支援チャリティーCDをリリースしました。

小島准教授は、東日本大震災の被災者の人々を想い、『1人じゃない』を作詞・作曲。この楽曲に感銘を受けた作曲家・菊地謙太郎氏が、現在それぞれの分野の第一線で活躍し、最も信頼のおけるアーティストたちの賛同を得て、演奏・録音・ジャケットアート(水墨画)・ジャケットデザインに至るまですべて有志により完成させ、震災から3年の2014年3月11日(火)にリリースされました。

CDのタイトルは、『1人じゃない/出会えた奇跡』、プロジェクト名はGrape Berry。小島

准教授の楽曲『1人じゃない』と、菊地謙太郎氏の楽曲『出会えた奇跡』を収録しています。グループ名のGrape Berry(グレイプベリー)は、葡萄の果実という意味。葡萄というのは1つ1つの果実が集まって形成されている果物で、被災地の復興に我々1人ひとりの力を合わせていこう!との想いから命名されました。

価格は1,000円で、製作にかかった実費を除いた「収益金」は、被災地復興支援に役立てていただくため、全額寄付されます。CDは、名古屋・栄地下街の「音楽堂サカエチカ店」、一宮駅の「音楽堂アスティーア一宮店」、通販サイト LAID8 RECORDS (<http://laid8.net>)

で発売中。すでに東海ラジオ『小島一宏 一週間のごぶサタデー』内や、NHKラジオ、岐阜放送、Radio80(エフエム岐阜)、K-mix(静岡エフエム放送)などで ON AIRされています。



横山弥生教授(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)

New Yorkで行われた展覧会に作品30点を出品しました

NYのLower Eastにある由緒あるギャラリーで展覧会が行われ、横山教授が出品しました。展覧会のタイトルは「Nuance in Nuance」。NY在住の日本人アーティストとの競演です。横山教授は平面作品およそ20点と3Dプリンターによる立体作品およそ10点を展示し、ギャラリーの半分を埋め尽くしました。なお、この情報

は日系のNY新聞数誌にも掲載されました。



大東憲二教授(情報学部 総合情報学科 経営情報専攻)

環境影響評価研修の講師を担当しました

1月16日(木)、名古屋国際センターで環境省主催「環境影響評価研修」が開催され、大東教授が講師を担当しました。

この研修は、平成25年4月に「環境影響評価法の一部を改正する法律(平成23年法律第27号)」が完全施行されたことに合わせて

全国7カ所で開催されています。大東教授は、「環境影響評価に関する技術的な動向(生活環境)」と題して80分の講演を行い、配慮書対応等を中心とした技術的な動向について説明しました。その他にも改正された法律の内容説明や環境影響評価事例研究の紹介

が行われたほか、「事後調査における課題」をテーマに参加者同士の意見交換会も開かれました。また、2013年12月24日(火)に福岡県で開催された環境影響評価研修でも講師を務めました。

地下水管理に関するシンポジウムで講演しました

2013年12月1日(日)、日本大学文理学部で開かれた公益社団法人 日本地下水学会主催のシンポジウム「地盤沈下の現状から見る今後の地下水管理」で大東教授が講演しました。

このシンポジウムは、大東教授が日本地下水学会の企画委員会で提案し、開催されたものの。広域地盤沈下対策として実施された揚水規制により、地下水位が回復し、地盤沈下が沈静化している地域を対象として、今後の地下水利用の在り方を議論しました。大東教授

は「濃尾平野の地盤沈下対策と地下水管理の現状」と題して講演を行ったほか、地下水の揚水規制と有効利用に関するパネルディスカッションでもパネリストとして参加しました。



舟渡悦夫教授(情報学部 総合情報学科 経営情報専攻)

最終講義に卒業生らおよそ100人が集まりました

1月15日(水)、39年の長きにわたって大同大学において教鞭をとってこられ、3月31日をもって定年退職を迎えた舟渡教授の最終講義が行われました。

会場には、在学生や教職員、舟渡研究室の卒業生らおよそ100人が集まり、「安全・安心のまちづくり」と題して講義が行われました。講義では、舟渡教授が歴代担当した授業科目や研究分野、舟渡研究室に在籍していた学生の話など、39年の月日を振り返りながらお話が進みました。また、舟渡教授が2005年に片岡義博さんと発表した論文『「安心・安全・快適条例」の実効性に関する研究』の発表も行われ、名古屋市で2004年に制定された「安心・安全で快適なまちづくりなごや条

例」の実効性について指摘されました。最後には舟渡教授が担当している授業科目「まちづくり工学」を受講している大崎拓哉さんと村瀬由弥さん(ともに工学部 都市環境デザイン学科4年)がプレゼンテーションを行いました。大崎さんは「名古屋市南区〜247号線の渋滞問題の課題と展望〜」と題して、国道247号線の渋滞問題について実際に現地へ出かけ要因を調査・分析した結果を発表。また村瀬さんは「一宮市の町づくり(コスプレと祭り)」と題して、愛知県一宮市の七夕祭りを活性化させるために行われたコスプレサミットについて、ユニークな視点から分析しました。

最後に舟渡教授は、この地域は海拔が低い

ため震災・水害対策が重要である、大学全体で今以上に対策をしてほしいとのお言葉を頂きました。





平成25年度 学位記授与式を挙行了しました

3月20日(木)、本学石井記念体育館で学位記授与式を挙行了しました。学部生675名、大学院生26名(修士課程25名、博士後期課程1名)、委託生1名が卒業・修了。

澤岡昭学長は、「どんな時代になっても、自分を磨いていくことが何よりも大切です。どうぞ、自分を大切に、同時に家族を大切に、楽しい人生を送ってください。大同大学は永遠に君たちのふるさとです。健康に気を付け、困難を笑って乗

り越え、元気で愉快な人生を送られることを、心から願っています。」と告辞を述べました。

卒業生総代の三輪祥吾さん(情報学部 情報システム学科)は、「本学での学生生活は自分自身を大きく成長させる機会でありました。これから、どんなに大きな壁にぶつかったとしても、自分自身に挑戦する姿勢で一步一步前進し、全力でそれを乗り越えていきたいと思います。」と答えました。

また、学位記授与式終了後は名古屋観光ホテルで卒業パーティーを行いました。



写真提供:アルバム委員会

博士後期課程修了

平成26年3月、工学部 機械工学科卒業生の萩野将広さんが博士後期課程を修了し、博士(工学)の学位を授与されました。おめでとうございます。

工学研究科 博士後期課程 材料・環境工学専攻 萩野 将広

論文題目「炭素繊維強化型複合材料(CFRP)の機械加工特性解析と環境対応型加工技術の開発研究」



学長賞(学部)

学科	氏 名	指導教員
機械工学科	高木 翼	堀 美知郎
機械工学科	松井 佑介	池田 洋一
総合機械工学科	櫻木 壽文	山田 喜一
総合機械工学科	安藤 与智	大嶋 和彦
電気電子工学科	久保田奨平	佐藤 義久
電気電子工学科	嶺嶺 博章	佐藤 義久
建築学科	大橋 怜	稲垣 卓造
建築学科	神谷 夏紀	佐藤 達生
都市環境デザイン学科	山田真美加	嶋田 喜昭
情報システム学科	中村 郁達	朝倉 宏一
情報システム学科	稲吉 弘光	柴田 慎一
情報デザイン学科	金子 昌裕	小高 直樹
情報デザイン学科	古関 彩香	齊藤慎太郎

学長賞(課外活動)

学科	氏 名	クラブ顧問
機械工学科	片桐 純平	大嶋 和彦
情報システム学科	橋爪 圭太	大嶋 和彦
情報デザイン学科	杉山 拓也	佐藤壮一郎
情報デザイン学科	島田あゆみ	齊藤慎太郎

学長賞(大学院)

専攻	氏 名	指導教員
機械工学専攻	山下正太郎	堀 美知郎
機械工学専攻	前川 真揮	坂倉 守昭
電気・電子工学専攻	楠崎 寛之	佐藤 義久
電気・電子工学専攻	波田 明久	大澤 文明
建築学専攻	佐合 孝文	笠嶋 泰
情報学専攻	小川 佑真	高木 基充
情報学専攻	山田 遼	朝倉 宏一

三好賞

学科	氏 名	指導教員
機械工学科	片桐 純平	井上 孝司
総合機械工学科	江下 徹	五十川幸宏
電気電子工学科	濱田 倫史	橋本 雄一
建築学科	福井 彰太	宇野 享
都市環境デザイン学科	三輪 宏平	鷲見 哲也
情報システム学科	廣田 貴紹	佐藤 秀樹
情報デザイン学科	磯崎 文音	光田 恵

共同研究ラボラトリー研究交流会を開催しました

3月14日(金)、共同研究ラボラトリー研究交流会を開催しました。本学では、教員と外部研究者による多種多様な14のラボラトリーが研究を行っています。外部に開かれたラボ運営を行い、産学官連携を促進するため、研究交流会が開催されました。

研究交流会では、工学系・情報系さまざまな研究を行っている14のラボラトリーの教員・大学院生がラボの活動状況や研究の進捗状況について説明しました。発表会終了後には参加者との交流会も開催されました。



中国・韓山師範学院の短期留学生を受け入れました

11月18日(月)から12月1日(日)まで、学術交流協定締結校である中国・韓山師範学院の学生15人が短期留学生として来学しました。

滞在した2週間は、本学各学科・専攻の授業



に参加。「実学教育」に基づいた実習の多いプログラムを実施しました。

授業のほかにも、資料館や工場、家電量販店の見学といった日本のものづくり技術と文化に触れる機会も設け、留学生たちは充実した留学生活を送れたようです。

11月29日(金)には修了式とフェアウェルパーティーを開き、代表学生が日本語でこの2週間を振り返って、日本での新たな発見と今回の短期留学に携わった本学教職員への感謝を伝え

ました。

韓山師範学院とは2013年5月に学生交流に関する覚書を取り交わしており、短期留学生受入れは今回が初めてでした。今年3月には本学の有志学生が短期留学生として韓山師範学院に滞在しました。

今回の短期留学生受入れは学術交流協定締結校との更なる交流の大きな足がかりとなりました。

本学キャンパスでJR東海のCM撮影が行われ、メディアデザイン専攻の学生も協力参加しました。

2月8日(土)、本学キャンパスでJR東海のCM撮影が行われました。

このCMは、学生向けの新幹線定期「フレックスパス」のテレビ広告で女の子が主人公の物語。B棟講義室や学生食堂で撮影が行われ、本学メディアデザイン専攻杉本幸雄研究室の学生ら十数名もエキストラとして参加しました。

学生たちにとって、本物のCM撮影を直接見

る機会はありませんため、とても良い刺激になったようです。



新刊紹介

『土木計画学 ―社会資本整備とマネジメント―』 著者：嶋田喜昭教授(工学部 建築学科 土木・環境専攻)

新しい土木計画の教科書

1999年に発行された『新編 土木計画学』(西村昂・本多義明編著)は、土木計画の理論的な基礎から説き起こし、各種統計的手法、OR的手法、工程管理計画と維持管理計画、土木計画の新しい潮流と、土木計画の全体像が理解できる教科書として親しまれています。

本書は『新編 土木計画学』の内容構成を土台として、「社会資本整備」と「マネジメント」に重点を置いて頁数を圧縮し、コンパクトにまとめた新たな教科書で、 Semester制に対応しています。

著者：伊豆原 浩二、嶋田 喜昭 共編

出版社：オーム社

発売日：2013年12月

A5 208頁

ISBN 978-4-274-21478-3

定価：2,700円(本体2,500円+税)



『環境アセスメント技術ガイド 計画段階環境配慮書の考え方と実務』

共編著：大東憲二教授(情報学部 総合情報学科 経営情報専攻)

環境影響評価法の改正で設定された「計画段階環境配慮書手続」。空港、道路、鉄道、発電所、港湾施設、ダムなど、大型のインフラ整備の際には、この手続きが必要になります。

インフラ開発の計画、施工に携わる関係者は専門家として必携の本です。

著者：環境省 総合環境政策局 環境影響評価課 監修
計画段階環境配慮技術手法に関する検討会 編著

出版社：成山堂書店

発行日：2013年12月6日

B5判 216頁

ISBN 978-4-425-98261-5

定価：3,888円(本体3,600円+税)



新任教員紹介



前田 安郭 教授 工学部 機械工学科

2014年4月に機械工学科に着任した前田です。専門分野は鋳造プロセス工学で、「ものづくり」、「素形材」をキーワードとして研究しています。鋳造製品の品質向上やコスト低減において必須のツールになった湯流れ／凝固現象の鋳造CAEソフトウェアの開発や検証実験を中心に研究していきます。また東海地区は自動車産業を中心に鋳造業が盛んな地域なので、地の利を活かして共同研究や地域貢献にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。



小里 泰章 准教授 工学部 総合機械工学科 機械システム専攻

2014年4月1日に工学部総合機械工学科に着任しました小里と申します。専門は流体工学と計測工学であり、これまで主に物体まわりの流れの制御をテーマに研究してきました。本学では、さらに自動車の走行安定性向上に関する研究など新たなテーマにも挑戦していきたいと考えています。また、授業や研究を通じて、知識だけでなく問題を見つけそれを自ら解決していく力を身に着けた学生を育てていきたいと考えておりますよろしくお願い致します。



上野 康平 講師 教養部 数学教室

2014年4月1日に教養部数学教室に着任しました上野康平です。出身は京都府で、以前は三重県の鳥羽商船高等専門学校で働いていました。専門は「複素力学系」と呼ばれる複素解析学の一分野です。近代のコンピュータ技術の発達により光があてられた、比較的新しい研究分野です。フラクタルやカオスとも関係があり、その魅力を実際に目で見ることができるといのが特徴のひとつです。本学では学生のみならず基礎学問としての数学を身につけられるように授業を頑張っていきたいと考えています。



岩橋 尊嗣 教授 情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻

2014年4月1日に情報学部総合情報学科かおりデザイン専攻に着任しました岩橋です。これまで企業の研究開発部門で役員として、消臭・脱臭剤の草案、開発、製造、販売、他社との交渉事まで、完結型の業務に携わってまいりました。それらの経験を生かし、学生に対して、今、社会ではどのような人材が求められているのかを伝え、スキルを身に付けることの重要性を説明していこうと考えております。



坪井 涼 講師 工学部 機械工学科

2014年4月1日に工学部機械工学科に着任した坪井です。専門は数値流体力学(Computational Fluid Dynamics, CFD)で、コンピュータを使用して空気や水などの「流れ」を再現します。近年では、その応用対象を流体潤滑における潤滑油の流動解析として、機械の摩擦特性の向上に関する研究を行っています。また、東京理科大学で5年間、助教として教育業務に携わってきました。研究・教育におけるモットーは「楽しむこと」です。大同大学でも、学生と一緒に楽しみながら機械工学のおもしろさを伝えられればと思います。よろしくお願い致します。



鈴木 雅博 講師 教養部 教職教室

2014年4月に教養部教職教室に着任いたしました鈴木雅博です。私は、これまで高校教員として23年間勤めてきました。ここ数年は大学院で学び、黒板の前にいたり背にしたりと目が回る生活でしたが、研究という新しいものの見方に接し、現場の実践をしっかりと吟味することが大切だと考えるようになりました。専門は、教員間相互行為を分析することです。本学では、学生の皆さんとともに「教育」をクリティカルに検討していきたいと思います。



大同大学創立50周年記念事業 講演会・式典・祝賀会を開催しました

12月14日(土)、名古屋東急ホテルで創立50周年 記念講演会・式典・祝賀会を開催しました。会場にはおよそ550人が集まりました。

11時からの講演会では、冒険家・プロスキーヤーとしてご活躍され、クラーク記念国際高等学校長も務める三浦雄一郎さんを講師にお招きしました。三浦さんが昨年の5月に80歳で3度目のエベレスト登頂を果たしたときの話はもちろんのこと、大学時代の話や父親の話、山に登ろうと思ったきっかけ等、講演いただきました。50代、スキーはやっていたがガラガラと過ぎてしまった結果、メタボになり、さまざまな病気が見つかってしまった。三浦さんの父は90歳を過ぎても年間100日以上スキーを滑り、99歳でヨーロッパアルプスの最高峰モンブランを滑った人。これを見習って、自分も目標を持とうと奮い立ち、70歳でエベレストに挑戦しようと思ったそうです。最初は家の近くの山

すら登りきることができなかったところから、日常生活の中で重りをつけて歩くなど少しずつトレーニングを積み重ね、富士山、ヒマラヤ山脈、そして70歳でエベレストを登頂し、当時の世界最高年齢登頂記録を樹立しました。その後心臓の手術を繰り返しながらも75歳で2度目のエベレスト登頂、そして80歳で3度目のエベレスト登頂、世界最高年齢登頂記録を更新しました。三浦さんは「自分の夢に挑戦することはいくつになっても必要である」と訴えかけました。

講演会の第二部は、三浦さんと澤岡昭学長の対談。ふたりは北海道大学の同窓生という縁。澤岡学長ははじめにプライベートの話をたくさんお聞きできればと伝え、三浦さんが結婚した時の話や63歳の時北海道知事選に立候補した話などをインタビューしました。また、学長の夢「世界最年長の宇宙飛行士になる」に



向けて何をしたいのか、アドバイスもいただいていた。

対談後は会場からも「冒険家として無名だったころの生活は?」「父親の尊敬できるところは?」などの質問が飛び交いました。三浦さんは、父親が100歳になっても自活し、挑戦し続けたことを挙げ「みなさんも何歳になっても夢に向かって挑戦してほしい」と講演を締めくくりました。

12時45分からは式典を挙行。大同特殊鋼株式会社 代表取締役会長 小澤正俊様よりご祝辞を賜りました。

13時30分からの祝賀会はゆったりと着席スタイル。参加者の半分以上が同窓生とあって、笑顔溢れる、たいへん和やかなパーティーとなりました。

理事・評議員人事

●就任(任期H26.4.1~H27.8.29)

【理事】

佐藤 達生 工学部 建築学科 教授

【評議員】

佐藤 達生 工学部 建築学科 教授

●退任(H26.3.31)

【理事】

水澤 富作 工学部 建築学科 教授

【評議員】

大脇 通保 法人本部 本部長付

人 事

●就任(H26.4.1)

澤岡 昭 大同大学 学長

佐藤 達生 大同大学 副学長

井上 孝司 大同大学 副学長

大嶋 和彦 大同大学 副学長

●退職【法人本部・大学】

<教育職員>(H26.3.31)

青山 正治 工学部 機械工学科 教授

松浦 章裕 工学部 機械工学科 教授

山田 喜一 工学部 総合機械工学科 教授

笠嶋 泰 工学部 建築学科 教授

舟渡 悦夫 情報学部 総合情報学科 教授

多田 俊政 教養部 数学教室 教授

定國 伸吾 情報学部 情報デザイン学科 講師

竹村 明久 情報学部 総合情報学科 講師

土田 豊 工学部 機械工学科 特任教員

稲熊 幸雄 工学部 電気電子工学科 特任教員

坂 貴 工学部 電気電子工学科 特任教員

関谷 昌久 工学部 電気電子工学科 特任教員

愛知 久史 情報学部 情報システム学科 特任教員

遠藤 敏夫 情報学部 情報システム学科 特任教員

佐々木秀太 教養部 人文社会教室 特任教員

溝口 健二 教養部 外国語教室 特任教員

曾我 静男 教養部 教職教室 特任教員

<事務職員>(H26.3.31)

清水 孝純 大学事務部 研究・産学連携支援室長

●採用【法人本部・大学】

<教育職員>(H26.4.1)

前田 安郭 工学部 機械工学科 教授

坪井 涼 工学部 機械工学科 講師

小里 泰章 工学部 総合機械工学科 准教授

岩橋 尊嗣 情報学部 総合情報学科 教授

上野 康平 教養部 数学教室 講師

鈴木 雅博 教養部 教職教室 講師

青山 正治 工学部 機械工学科 特任教員

(任期:H26.4.1~H27.3.31)

野田 卓 工学部 機械工学科 特任教員

(任期:H26.4.1~H27.3.31)

松浦 章裕 工学部 機械工学科 特任教員

(任期:H26.4.1~H27.3.31)

西堀 賢司 工学部 総合機械工学科 特任教員

(任期:H26.4.1~H27.3.31)

笠嶋 泰 工学部 建築学科 特任教員

(任期:H26.4.1~H27.3.31)

山本 俊彦 工学部 建築学科 特任教員

(任期:H26.4.1~H27.3.31)

山内 五郎 情報学部 情報デザイン学科 特任教員

(任期:H26.4.1~H27.3.31)

<事務職員>(H26.4.1)

菱田 敏貴 企画調整部 経理室

山本 歩美 大学事務部 キャリア支援室

●昇任【法人本部・大学】

<教育職員>(H26.4.1)

白石 裕之 工学部 機械工学科 教授

井藤 隆志 情報学部 情報デザイン学科 教授

松本 孝文 教養部 人文社会教室 准教授 併任

情報学部 総合情報学科 准教授

今井 健二 教養部 物理学教室 教授

高山 努 教養部 化学教室 教授

松井 豊次 教養部 外国語教室 教授

<事務職員>(H26.4.1)

佐藤 光彦 総務部 管財室長(部長待遇)

鈴木美喜男 総務部 管財室 主席部員 兼

法人本部 本部長付(部長待遇)

冷水 孝夫 大学事務部

研究・産学連携支援室長(部長待遇)

松下 賢則 企画調整部 情報室長(次長待遇)

錦織 整 大学事務部 教務室 主任部員(課長待遇)

大竹 俊輔 大学事務部 学生室(主査待遇)

都築 基 大学事務部 教務室(主査待遇)

●異動【法人本部・大学】

<教育職員>(H26.4.1)

山田 雄太 教養部 保健体育教室 准教授 併任

情報学部 総合情報学科 准教授

<事務職員>(H26.4.1)

堀木 俊宏 企画調整部 情報室

大石 勇起 大学事務部 教務室



大同大学
DAIDO UNIVERSITY

DAIDO CAMPUS No.81 2014年4月25日発行(季刊)

編集・発行: 大同大学入試・広報室 〒457-8530名古屋南区海春町10-3 TEL052-612-6117 FAX052-612-0125

E-mail koho@daido-it.ac.jp URL http://www.daido-it.ac.jp